

つどい

初の旧弘前偕行社での 青森県偕行会総会

青森県偕行会は、実りの秋を迎えた9月20日、本年4月1日リニューアルオープンした旧弘前偕行社において令和2年度の総会を開催した。総会に先立ち昨年度までと同様に、弘前市にある青森県護



なる「小集会所」に案内された。会場には総会と引き続き懇親会のための机・椅子が並べられていた。

早速、会員が待ちかねた旧弘前偕行社の案内が、大森寛職員により始められた。スタートは北西に位置する小集会所となり、天井の漆喰レリーフやシャンデリアから、格式の高い部屋だったと説明された。次いで、西廊下から師団長等が利用した南西に位置する客室へ進んだ。小集会所より格式が高く、シャンデリアは銀メッキが施されている。同所には偕行社始め寄付者の氏名が刻まれた銘板が設置されている。客室から南廊下を進むと中

國神社の正式参拝を行った。当日は弘前公園で「弘前城 秋の大祭典」が開催中で、公園北の丸の同神社に向かうには公園入口で、コロナウイルス対策による検温、アルコール消毒、氏名・住所の記入が必要とされ、加えて周辺駐車場が混雑し、参拝開始時間ぎりぎりに間に合う会員もいた。参拝は全員マスク着用で拝殿内に間隔をとってとなった。参拝後、拝殿前で15名が「英霊に敬意を」等の垂れ幕を掲げて写真を撮った。

大祭典の弘前城を後に、総会会場の旧弘前偕行社に車に分乗して向かった。いつもは約10分で着くところ渋滞により2倍以上の時間を要した。

会場に到着すると、旧弘前偕行社職員3名が迎えに来てくれ、直ちに総会会場と

央に位置する広さ110坪(360㎡)の会場となる。同所で明治43年行われた歩兵第52聯隊長の結婚披露宴の新聞記事が残されている。また、昭和11年に陸海軍将校婦人会が行った秩父宮妃殿下奉送式なども記録されている。続いて南東に位置する書籍室(現在は展示室となっている)に進み、弘前偕行社の名入り灰皿や、陸軍時代の偕行社名入り双眼鏡などが関心を呼んだ。同所から北東に位置する球突場へ進んだ。球突台は復元されていないが、弘前偕行社の刻印が押された椅子が並べられていた。最後は北側正面中央の玄関に向かった。同所では陸軍第8師団に因んだ「蜂」のレリーフが印象的であった。東西約50m、南北約33mの建物内の見学は驚きと感動の連続であっ

た。その結果、総会の時間が大幅に少なくなり約10分での審議となった。殆どの議題は文書確認となり、最重要議題の「会長交代」のみとなった。予てより伊藤会長から「旧弘前偕行社がリニューアルオープンした暁には、後身に譲りたい」との申し出があり、89歳の年齢を考慮すると交代も妥当であろうが、88歳の会員以下全員の「もう一任期お願ひします」の声に、交代は2年後となった。

なお、今回も旧軍関係者は伊藤会長のみとなったものの、元幹部自衛官は、正式参拝15名、総会・懇親会は14名の出席となった。

懇親会は会長献杯の発声で始まった。発声挨拶で「昔の会議では、会長が審議は議案書に書いてある通り。懇親会始めぞー! だった。今日はそれに近い形になった」と言われ和やかに行われた。

コロナ禍で春の花見が中止となり、1年振りの交流の輪を広げた。5時間に及んだ正式参拝、総会、懇親会の最後には、旧弘前偕行社は、極めて貴重な旧陸軍の遺産として、今後百年先まで存続継承され、偕行会行事での利用ははじめ全国からの偕行社会員の見学案内に、偕行会としても最善を尽くすべく話し合わせ、会場南側の「遼止園」に出て途中退席者を除き全員で写真を撮った。そして、来春の花見での再会を期して旧弘前偕行社を後にした。